

1.0版 2022年12月22日 株式会社アンク

管理者マニュアル

FOR SHAREPOINT 2019

[SP 改] 閲覧記録機能

目次

稼働環境	2
インストール	
アップグレード	5
アンインストール	
····································	, β
	0

稼働環境

『[SP 改] 閲覧記録機能』は、以下の環境で動作します。

• Microsoft SharePoint Server 2019

インストール

以下の手順でインストールします。

1. ソリューションの追加

PowerShellのAdd-SPSolutionコマンドを使ってソリューションファイル「ASK.Footmark.wsp」をソリューションストアに追加します。

例)

Add-SPSolution -LiteralPath c:¥ ASK.Footmark.wsp

ソリューション ファイルの詳しいインストール方法については、下記マイクロソフトのサイトをご参考にしてください。

Add-SPSolution

http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ff607552.aspx

2. ソリューションの展開

[サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの[システム設定] から [ファーム管理] セクションの [フ ァーム ソリューションの管理] ページを開き、上記で追加した「ASK.Footmark.wsp」を Web アプリケー ションに展開します。

- 「閲覧記録機能インフラストラクチャ」機能の有効化(Web アプリケーションの機能)
 [サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの[アプリケーション構成の管理] から [Web アプリケーション] セクションの [Web アプリケーションの管理] ページを開き、機能を有効にする Web アプリケーションを選択して、リボンメニューの [機能の管理] をクリックします。表示される [Web アプリケーション機能の管理] ダイアログボックスで、『[SP 改]閲覧記録機能インフラストラクチャ』を「アクティブ」にします。
- 4. 「閲覧記録機能」の有効化(サイトコレクションの機能)
 本機能を利用するサイトの、トップレベルサイトの[サイトの設定] 画面から [サイトコレクションの機能] ページを開き、『[SP 改]閲覧記録機能』を「アクティブ」にします。
 ※コンテンツデータベースに、「閲覧情報格納用テーブル」と関連するストアドプロシージャが登録されます。
 SharePointのサービスパック(SP)、累積更新(CU)、Hotfixを当てた際に、本機能に利用するストアドプロシージャが削除され、本機能が利用できなくなる可能性があります。その場合は、本機能を利用するサイトコレクションが属するコンテンツデータベースに、仮のサイトコレクションを作成し、そのサイトコレクションの「サイトコレクションの機能」で本機能をアクティブ化してください。それにより、そのサイトコレクションが属するコンテンツデータベースにストアドプロシージャが登録され、同じコンテンツデータベースに属す

るすべてのサイトコレクションで本機能が再び利用できるようになります。 上記の作業完了後、仮のサイトコレクションは削除して問題ありません。 この手順は、本機能を利用するサイトコレクションが属するすべてのコンテンツデータベースで行う必要が あります。

参考)

コンテンツデータベースが同一 Web アプリケーションに複数存在する環境では、全体管理サイトからで はコンテンツデータベースを指定してサイトコレクションを作成できません。その場合は、サイトコレクション をコマンドラインで作成することで、コンテンツデータベースを指定できます。

例)

New-SPSite -URL https://webApp/sites/testsite -OwnerAlias "DOMAIN¥JDow" -Language 1041 -Template STS#0 -ContentDatabase wss_content

アップグレード

既に本機能の以前のバージョンがインストール済みの環境に、新しいバージョンを適用する場合には、以下の手順でアップグレードします。

1. ソリューションのアップグレード PowerShell の Update-SPSolution コマンドを使ってソリューション「ASK.Footmark.wsp」を更新(ジョブ を投入)します。

例)

Update-SPSolution -Identity ASK. Footmark.wsp -LiteralPath c:¥ASK.Footmark.wsp -GACDeployment

ソリューションの詳しいアップグレード方法については、下記マイクロソフトのサイトをご参考にしてください。

Update-SPSolution http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ff607724.aspx

2. PowerShell の Start-SPAdminJob コマンドを使って投入済みのジョブを実行します。

例)

 ${\tt Start-SPAdminJob}$

注意:ジョブが自動実行設定されている場合、このコマンドはエラーとなります。自動的 にジョブが実行されるため、エラーは無視して問題ありません。

ジョブの詳しい実行方法については、下記マイクロソフトのサイトをご参考にしてください。

Start-SPAdminJob

http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/ff607833.aspx

※アップグレード時の注意点

アップグレードの操作中に、自動的にIISが再起動されます。自動的に再起動されない場合には、IISマネ ージャや IISReset コマンド等で IIS の再起動を行ってください。

IIS 7.0: アプリケーション プールをオンデマンドでリサイクルする http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/cc770764%28WS.10%29.aspx

備考)多国語対応バージョンにアップグレードする際の注意点

多国語対応していない、以前のバージョンをインストール済みの環境に、多国語対応したバージョンを 適用する場合は、以下の点にご注意ください。

・閲覧記録列、閲覧記録追加列の列名の多国語化

本機能を有効化したリスト/ライブラリには、「閲覧記録列」が追加されています。また、「閲覧を記録す るビュー」として設定されたビューには「閲覧記録追加列」が追加されます。列が既に追加された状態で多 国語対応バージョンを適用した場合、これらの列名は、サイトの表示言語を切り替えても日本語のまま表 示されてしまいます。

列名をサイトの表示言語によって切り替えるようにするためには、リスト/ライブラリの閲覧記録の設定画 面で本機能を一旦無効化し、再度有効化する必要があります。この作業を行うことで、多国語に対応し た列がリスト/ライブラリに対して追加されます。

アンインストール

以下の手順でアンインストールします。

1. 機能の無効化

本機能を利用しているすべてのサイトで、トップ レベル サイトの [サイトの設定] 画面から [サイト コレク ションの機能] ページを開き、『[SP 改]閲覧記録機能』を「非アクティブ」にします。

2. 閲覧記録機能インフラストラクチャの無効化

[サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの[アプリケーション構成の管理] から [Web アプリケー ション] セクションの [Web アプリケーションの管理] ページを開き、機能を無効にする Web アプリケーショ ンを選択して、リボンメニューの [機能の管理] をクリックします。表示される [Web アプリケーション機能の 管理] ダイアログボックスで、『[SP 改]閲覧記録機能インフラストラクチャ』を「非アクティブ」にします。 ※閲覧情報を記録している SQLServer 上のテーブル等は自動的に削除されません。

3. ソリューションの取り消し

[サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの[システム設定]から [ファーム管理] セクションの [ファ ーム ソリューションの管理] ページを開き、「ASK.Footmark.wsp」を すべての Web アプリケーションから 取り消します。

※アンインストール時の注意点 必ず『[SP 改]閲覧記録機能』・『[SP 改]閲覧記録機能インフラストラクチャ』を"非アクティブ"にしてから、 展開の取り消しを行ってください。

4. ソリューションの削除

[サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの[システム設定]から [ファーム管理] セクションの [ファ ーム ソリューションの管理] ページを開き、「ASK.Footmark.wsp」を削除します。

ログ出力設定

不具合調査等で、ログを出力したい場合は以下の手順でトレースログ出力の設定を行ってください。 ※ログの出力は、他の SharePoint 機能やサービスと同じ様に「診断ログ」として出力されます。そのため、十分 に運用計画を行ってから設定してください。

※フォーム列制御機能のトレースログは、[Process]属性 が「ASK.Footmark」で出力されます。

- 1. [サーバーの全体管理] サイトで、サイドリンクバーの [監視] から [レポート] セクションの [診断ログの構成を表示します。
- 2. [記録されるイベントの設定]の設定を行います。
 - ▷ [カテゴリの選択]に表示されているツリービューで、[SharePoint Foundation] ノードを展開します。

記録されるイベントの設定	
これらの設定を使用して、 Windows イベント ログおよび	カテコリの進択 カテゴリ
トレース ログに記録されるイベン トの重要度を制御します。重要	🖻 🗌 すべてのカテゴリ
度を下げると、記録されるイベン	Access Services
トの数か増加します。	Access Services 2010
1 つのカテゴリの設定を変更する	🖲 🗌 Business Connectivity Services
ことも、すべてのカテコリの設定を 変更することもできます。すべて	Document Conversions
のカテゴリを更新すると、個々の	🖲 🗌 Document Management Server
カテコリの変更内容が失われま す。	🗉 🗌 eApproval
	Education
	Excel Services Application
	🖲 🗌 InfoPath Forms Services
	Office Automation Services
	Office Services Infrastructure
	🗉 🗌 PerformancePoint Service
	🗉 🗌 Search
	Secure Store Service
	🗉 🗌 Services Infrastructure
	SharePoint Express
	SharePoint Foundation

▶ 展開された子ノードから [Web Parts] のチェックボックスにチェックを入れます。

情報	中
情報	中
	情報 備報 報報 情 情 報 報 報 報 報 報 報 報 報 報 報 個 情 報 報 個 情 情 報 個 情 情 報 個 情 情 報 個 個 情 情 報 個 個 個 個

▶ [トレースログの記録対象となる重要度の最も低いイベント] で、「高」を選択します。

イベントログ	の記録対象となる重要度の最も低いイベント	
トレースログ	の記録対象となる重要度の最も低いイベント	1
高		

3. [トレースログ] で、トレースログが保存される場所、保存するログファイル数、1 つのログファイルを使用する 時間を設定することができます。

トレースログ	<i>I</i> /Z
トレースを有効に9 ると、トレース ログを特定の場所に保存するこ	%CommonProgramFiles%¥Microsoft Shared¥Web Server Extensions¥15¥LOGS¥
とかできます。注意:ファームのす	例: %CommonProgramFiles%¥Microsoft Shared¥Web Server Extensions¥15¥LOGS
へてのリーハーエに19159る場 所を指定する必要があります。	ログファイルの保存日数
他に ロガ ファイルの星長保存	14
日数を設定したり、ログに使用す	トレース ログのディスク領域の使用を制限する
るディスク領域の最大容量を制	□トレース ログのディスク領域の使用を制限する
ログの使用に関する詳細	トレース ログの保存容量の最大値 (GB)
	1000

4. [OK] ボタンをクリックし、設定を完了します。

以上